

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390800086		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	認知症型共同生活介護事業所 ゆとり		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町下内田75		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成31年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節の移り変わりを感ぜられる自然の中にホームがあります。空を見上げ、花を育て、外の風を感じられる環境にあります。理念に掲げております「ゆったり、ともに笑い、りそうの生活」(ゆとり)を目標に入居者様のペースに合わせる事が出来るようお一人お一人の生活歴、既往歴、現病をしっかりと理解し、問題があれば会議、申し送りにて即対応出来る様に体制を整えております。地域の行事、季節の行事、外出等に参加される事で気分転換など昔の生活でのお話も聞かせて頂く時間を大切にしています。1人1人のお気持ちを尊重し、その時々体調に応じてゆったりと時間に捕らわれない形で支援しております。ご家族の皆様とも日頃からのコミュニケーションを大事にしております。看取りについても積極的に受け入れをしております。入居者様を中心に職員、ご家族、地域、等の協力にてご支援行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近くに畑や栗林、竹林があり、季節の移り変わり自然が満喫できる環境です。利用者の共有空間は明るく、暖かい穏やかな生活が送れるよう配慮されています。個別記録はじめ、職員研修や会議録などの記録が充実しており、一人ひとりに対するきめ細やかケアに努めています。利用者や家族との関係を支援するために、面会を促したり、連絡報告をまめに行う働きかけを継続しています。看取りに関しても、家族へ部屋やリビングを提供し、最期まで利用者や家族への積極的な支援を行っています。また、新たな人材の採用・教育への取り組みも始まっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ただ掲げる理念ではなく、利用者様が笑顔で過ごせるように、職員自身が日々を楽しめる職場環境作りを目指して、職員、管理者お互いに情報共有を行うことで早期の問題解決に努めている。	各職員の名札に理念が明記されています。入社時の教育時のみならず、理念が日々のサービスに活かされているかを会議毎に話し合いが行い、共有に取り組まれています。	さらに日々のケアが理念を具体化したものになっているかを意識して取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回のヨガ教室で地域の方の事業所訪問あり。また、積極的に地域行事の参加を行い、近隣小・中学校行事等毎年のお誘いを受け、お互い行き来している。事業所の企画で毎年の夏祭り、ソーメ流し、餅つき等の行事開催にて地位の方々の参加、交流を深めている	地域住民の一員として地域活動等に積極的に参加するほか、イベントボランティアを積極的に受け入れたり、利用者家族の得意とされるヨガ教室を開催しています。民生委員、地区長と情報共有し連携しています。	地域の行事や季節の催しなどのみならず、日常の暮らしの中での地域の方との関わりを検討されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年徘徊模擬訓練を主導し実地している。又ラン伴の参加で11月11日認知症の方とのたすきをつなぐ全国的な活動参加もしている。認知症サポーター養成講座の実習受け入れ等の機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会にて報告後、意見交換を行い参加者より助言頂いた内容は次回の資料において改善させ内容の変化に繋げている。11月の会議時は初めて推進委員参加にて避難訓練実施した。	事業所の報告を中心に行っています。家族は交代で出席されています。地域包括や市の担当者のほか、消防署や警察の参加もあり、徘徊模擬訓練や避難訓練を実施につながっています。	出席者が参画し、地域の理解や支援が得られるよう、事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合うなどの働きかけが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市の担当者との連携を取り協力を得ている不明な点等がある時には直ちに連絡、相談している。	市町村担当者との連携は出来ています。地域の人の一時避難所としての受け入れをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月の法改正もあり、身体拘束をしないことを掲げ、具体的な行為について職員間で毎月の会議で研修の機会を設け、指針の確認を行い、ケアの中で振り返りをする事で意見交換をしている。	各居室のベットは低く、センサーマットも使用していません。毎月の研修の中で話し合い、指針の共有を行っています。	今後も安全面を配慮しつつ、自由な暮らしが継続できるよう支援していかれることが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議時に勉強会開催している。現在行っている支援はどうであるか、職員間、上司に助言もらいながら見過ごされない様取り組んでいる。全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者様に該当者なく活用していない。ただし必要時は活用できるよう、月1回の会議等で互いにチェックできる環境にしている。ご家族からの相談等あれば職員から管理者への報告を徹底して早期の対応を心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者契約に際し時間をかけて説明を行い疑問不安点等聞き取りを実施しご家族の同意のもと契約締結出来ている。利用料等での不明点等あれば早期に家族への対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を毎年実施し、意見交換の場と現状報告等機会を作っている。又日頃より面会の機会や定期受診の同行時にご家族との関りを持ち要望しやすい雰囲気づくり心がけ、知り得た情報をきちんと管理者へ報告し、早期の対応を行っている	共に利用者を支えていくという観点と交流を大切にしている考えから、契約時から利用開始時家族へ月1回の面会をお願いする働きかけを行っています。家族と密に連絡をとり、要望や意見の聞き取りを行い、記録をとることでスタッフ間の情報共有を図っています。	家族は、意見や要望、不満を言い難いものです。そのことを理解し、意見を聴く努力や場面作りをされることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議において意見交換の機会作りを実施している。また、事業所ごとに役職者を配置し、職員の意見に対しての対応を幹部の会議で話し合い早急対応など、必要に合わせ、解決に努めている。些細な言動でも職員の訴えを大切にしている。各事業所の情報の共有に努めている	各部署の直属の上司が職員一人ひとりに対して日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、聞き取りを行っています。事業所会議で改善する対応がとられています。	働く意欲が向上することで、より職員と利用者の馴染みの関係づくりやサービスの質の向上につながることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からの評価を踏まえ、給与などへの反映を行っている旨を各職員に伝え実施している。又日々感謝の言葉などかけ、退勤時にはありがたうございましたの声掛けを行っている。家庭環境に応じた勤務時間の相談にも応じている(勤務希望の取り入れる)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	メンタルケアの導入。個別面談を行っている。一人一人の能力アップに向けて、事業所は研修の機会を確保し、参加を進めている。常に上司が職員に目を向け、個々の能力に応じた力量を見極め、行動発揮できるよう見守りしている。また、外部研修等の案内も行き、希望するスタッフには行けるように手配をする		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域での集まり、連絡協議会(地域密着事業所)等に参加し、情報交換や勉強会などを実施している。ブロック研修会への参加を通じて他事業所等の交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、本人からの主訴、状態、以前の生活歴を出来る限りアセスメントしておき、具体的な本人の要望も確認できる方はしておく。それによって実際に利用された際にはその情報を基に初回から密に接することができるようにしている。また、本人の意見や意向を各職員間で入居前にはスタッフ同士共有し、安心出来る環境を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談段階で聞き取りを実施し、しっかりと家族からの主訴、経過、要望や意向を確認している。また家族からの現状と、今後のたどる経過など、認知症進行への理解等説明することで、職員が対応出来る事、ご家族にしかできない支援の内容等、説明しながら相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、緊急性や優先順位についてアセスメントし、必要な事から対応を行っている。他のサービスにおいても必要に応じて対応できるよう各関係機関との連携体制を整えている。また、管理者と職員との報告を徹底することで情報交換がタイムリーに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社の理念として、「家族」という思いを持って日々の関わり作りに努めている。共同生活の場として、自宅に近い雰囲気作りを心がけながら、洗濯干しやたたみ、料理など出来る事への取組みをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的受診は体調の把握を目的に家族での対応を依頼している。また、誕生日やイベント参加を促し、共有の時間作りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事など参加いただき見慣れた風景などの場所へ行けるよう計画をたてている。また、民生委員さんを通じて以前の暮らしや友人関係等の情報収集を行い、民生委員さんを通じてご近所さんの来訪に努めている。	地域の行事等などに参加しています。また、近くの関連事業所の利用者の訪問があります。事業所の行事へ家族の参加があるほか、お孫さんの学校の文化祭へ外出する機会もあります。	馴染みの関係の再構築や、新たな関係をつくりあげていくことも検討されてはいたがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格をしっかりとアセスメントし、席の配置等を考慮している。活動時は職員も一緒に取組みを行い、孤立されない環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、相談支援が出来る体制は整えているが、実際は中止後の関わる機会は少ない。利用者が亡くなった後の家族支援等、今後取り組める活動も必要と考える		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中での気ずきを共有し、定期的カンファレンス前には本人の意向の聞き取りを行って居る。認知症ということで、自身の思いの聞き取りが困難な方については御家族より以前の暮らしぶりや性格等情報収集して意向のくみ取りに努めている。	本人からの聞き取りだけでなく、ご家族への聞き取りも行い、可能であれば入居前に職員がそれまで過ごされていたご自宅を訪問し、それまでの暮らしを把握するよう努めています。	家族だけでなく馴染みの関係を活かして、利用者本人の視点に立った意向の把握を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初より、家族からの聞き取り、本人との会話の中で把握する機会を作っている。暮らしのシートの活用。入居後での会話の中でも本人を知る情報があれば職員間で情報共有し把握に努めているが、職員の中では情報収集と記録に苦手意識がある子もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の方に寄り添いその方の過ごしやすいように過ごしてもらうために何が出来るか考え支援している。また、生活歴の中から出来るかもしれない事を考え、取組みの機会を設けている。(本人のできない事への支援より、できる事への支援を中心にケアを考えている)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の会議で、ケアについての意見交換行って課題を見つけている。ご家族とは面会時に状態の報告と望む暮らしについてのご意見を尋ねる機会を作っているが、ご家族によって、真摯に考えて下さる家庭とそうでない家庭があることで全員できているとは言えない。	モニタリングは3ヶ月に1回を基本とし、状況変化に応じて計画の見直しを行っています。職員間でケアについての意見交換と情報共有を図っています。	役職者だけでなく、職員一人ひとりがご家族との対話から要望や状況の変化を聞き取り計画に反映できることを課題とされています。新鮮な視点をもって取り組まれていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の記録基にモニタリングを実施し、カンファレンスにて3か月ごとにプランを見直しをしている。職員間での申し送りを徹底し全員が同じ支援が出来るように情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族の状況を知り問題があれば上司の意見を交え職員間で対応が出来るよう体制を整えている。サービスの提案なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年々、身体能力的に積極的に外へ出向くことが難しくなっている状況ではあるが、家族の協力で短時間の外出、外食など楽しむ機会は取れている。地域の行事参加もおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望や要望に応じて実施している。施設から近いかかりつけ医ということで、利用者様の負担も少なく移動ができ、かつ、体調、次第では往診対応も出来ている。いつでも相談できる関係を築いている。看取りの対応も医師との連携できている。	要望によりかかりつけ医の受診を継続を支援していますが、安定的かつ継続的な受診のために事業所協力医に変更するケースもあります。看取りに向けて医療機関との連携を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があれば、看護職への相談を行い、介護職では判断に迷うことは看護と相談、連携作りは日頃よりできている。また、怪我の処置等状態の観察も看護職に見てもらえることで悪化の予防が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった時点で情報提供書を送り、退院の際も情報交換、退院時のカンファレンスを実施している。必要時は電話使用し情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの説明同意を得る機会を速やかに作り実施している。ただし、同意後の利用者様の体調変化から、終末期の期間が長引いた場合の再確認が課題である。家族の気持ちの変化にも寄り添える環境をととのえている。	看取りの計画を作成し、家族へ医師の説明が行われています。家族へは随時意志の確認をしながら取り組まれています。家族の泊まりのための環境も整えられています。	利用者と家族の納得が得られるよう、状況の変化の度に、話し合いを繰り返す積み重ねがさらに必要となってくることでしょう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、日頃より職員間で対応方法の周知徹底を図っている。消防署の職員協力にて訓練実施し質問の機会を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練においては、昼、夜を想定した訓練実施している。課題について話し合い周知徹底して備えている。熊本県以外の他施設との連携体制出来ており定期的に職員交換研修実施訓練おこなっている。	地域、消防・警察に参加してもらい、隣接している事業所と連携を図り、防災訓練を実施しています。緊急時の連絡は、瞬時に併設事業所と全職員に緊急アラームとして知らせるシステムを導入しています。	今後は地域住民や警察署、消防署と連携を図りながら災害時別の対策や具体的な支援体制構築に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中でプライバシーの確保を行い、スタッフ同士もお互い気をつけながら言葉かけにも注意を払っている。職員同士の会話についても現在課題としている所でありお互いに注意しあえる環境、関係作りおこなっている。	笑顔でのあいさつを基本とし、居室のドアのノック、同性介護、サービス提供時の言葉かけなど、スタッフ間で徹底することを努めています。	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、さらに日常的に確認されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や、自己決定はなかなか難しくなっているが会話の中から探りだすなど工夫している。本人の歴史の中から思いがわかるものなどあれば会話に盛り込んでいる。出来る限り本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の使命感が強くと、しなやかにならなければならないという業務優先になりがち。「入居者様優先」「入居者様中心」が見失いがちになる傾向にあるため、スタッフ同士が声かけあい、また上司が職員に対して肩の力を抜いて仕事出来るようアドバイスし、利用者様との関わりの時間を多く取れるように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や誕生会には化粧を施し支援している。また、カット・カラー・顔剃りなどご本人の好みに合わせて美容の予約も職員で行っている。習慣を大切に、化粧品がなくなりそうになったら家族へ連絡するなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や、季節の食材を調理する際に、利用者様と共に調理や片付けを行っている。台所に立ってない方には、ホットプレートを活用したりしている。お誕生会にはその人の希望する献立を提供したりする。食器類もきちんと配膳することで、見た感じからも楽しんで頂ける配慮を行う。	日常的には利用者が得意とされる食事の準備の手伝いをお願いしています。誕生会には家族の参加を促しており、職員と共に一緒にケーキを作り提供しています。希望に応じて出前や好みのものを提供しています。	食事をさらに楽しんでいただくために、その日のメニューの掲示を検討されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し支援出来ている。9人それぞれの形態をきちんと職員間で統一し、食事摂取量、水分摂取量を記録に残している。体調不良時などにおいては食事形態の変更などし安全においしく食べられるようにし支援している。		
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。看護師より、口腔ケアについてのやり方を教えてもらい、職員全体で取り組んでいる。歯ブラシ、クルリーナなど一人一人に合わせた対応おこなっている。かかりつけの歯科往診も状況に応じて依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の状況把握を行い柔軟に対応している。日中、夜間と排泄のタイミングを把握し、可能な限りのトイレでの排泄につなげている。オムツでの排泄になる場合は適したパットの使用となるようにみなで検討している。	紙パンツ使用を基本として、一人ひとりのペースやパターンを把握し、定期的マッサージなども取り入れるなどして、トイレ誘導を行っています。	布パンツへの移行も検討されてはいいかでしょうか
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握は必ず行っている。排便コントロールが必要な方が多く、薬の相談はかかりつけ医との相談しながら、水分や食事形態の工夫で調整している。体操や腹部マッサージなどを実施し体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴は必ず行っているが、身体状況に応じて、創傷の処置が必要な場合など、回数に関係なく入浴して頂いている。拒否などがある場合は一日を通して入りやすい時間での支援行っている。必要時(汚染等)には清拭も取り入れている	利用者がくつろいだ気分で入浴できるよう、個浴にて同性介護で対応されています。柚子湯やしょうぶ湯など季節を楽しめるようにしています。	入浴という行為は、特に利用者の習慣や希望に多様性があります。一人ひとりの習慣や好みを聴いて、個別の入浴支援の実施を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の準備は当たり前だが、人の声で安心される方やテレビの音で休まれる方など和室で休んで頂いたり、くつろぎやすいソファで休んで頂いたり臨機応変に対応している。居場所の確保に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に薬情を付けており、情報の共有を行っている。定期の受診では、現在の状況を伝え書面にし家族に伝え服薬の見直しなどを提案している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、歴史等確認しながら楽しめることを探っている。菜園での野菜作りなども共に行い、収穫の楽しみにつなげている。また、季節を感じる献立や、外出支援も計画して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日は近くの散歩などお誘いしている。また、近隣に住むお孫様の中学校行事に出かけて、現地でご家族と過ごせる時間を作ることも支援に入れている。日々の洗たく干しは習慣として取り組んで頂いている。ご家族には定期受診等同行して頂いたりして、一緒にご家族で過ごす時間を取って頂いている。	行事外出は計画的に行っています。ベランでの外気浴、洗濯物干し、近所の散歩などできる人はしていますが、日常かつ個別的な外出についてすべての利用者に対しては支援できていません。	1週間に1回ずつ、すべての利用者が外出できるよう計画されてはいいかでしょうか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にはおこなっていない為自身での所持はされていない。希望があればご家族に連絡し、必要物品の購入をお願いしている。ただし、施設の買い物に同行して頂き、スタッフとともお店へ外出される機会をもっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話はいつでもご利用者様へ取り次いでいる。耳の聞こえが悪い時は、職員が代弁して橋渡しをおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活出来るような環境を整えている。季節ごとに壁の装飾を工夫し楽しめる空間作りを行っている。職員も楽しんで演出している。掃除では担当を決め清潔を心掛けている。導線の確保にも留意している	共有空間であるリビングは穏やかな暖かい感じの光に包まれ、居心地の良い空間となっています。事務所との境界は雪見障子で仕切られおり、日本的な馴染みのある生活空間として感じられる工夫があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置などの配慮、実施出来ている。利用者様の相性などしっかり考えて対応している。ソファ、肘置き椅子、和室の畳に座布団を敷き思い思いに過ごされるよう環境を整えており居場所の確保に心が下っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使っていたものや、タンスなどを持って来て頂き、住み慣れた使いやすい環境作りを実施している。ご家族の写真、壁飾りなどの声かけし、飾っており回想法に繋がるよう支援している。	シンプルな居室で、一部使い慣れた家具の持ち込みが見られたり、家族写真が飾られていました。	居室は自宅であるという事業所として考えを発展させ、利用者の意向を確認しながら、本人らしい温かみのある居室づくりに取り組まれることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誰でも行き来出来る室内の空間となっている。キッチンやトイレなど、職員も利用者様も共同で使用しておりご利用者様の自立支援に役立つように心掛けている。		